

一般社団法人日本地域看護学会
2021年度第1回理事会議事録

- I. 日 時 2021年5月1日(土) 13:30～16:00
- II. 会議形態 Zoomによるオンライン会議
配信元：株式会社ワールドプランニング会議室(東京都新宿区神楽坂4-1-1)
- III. 出席者 理事長 宮崎美砂子
副理事長 荒木田美香子, 田高 悦子
理 事 石橋みゆき, 石丸 美奈, 上野 昌江, 大森 純子,
岸 恵美子, 北山三津子, 河野あゆみ, 小西かおる,
田村須賀子, 永田 智子, 春山 早苗*
監 事 佐伯 和子, 村嶋 幸代
事務局 筒井 愛, 野田 智己 (*印は欠席者)

宮崎理事長より、理事の過半数が出席していることから、定款第38条に則り、本理事会の成立が宣言された。

IV. 議 事

審議事項

1. 前回理事会議事録について(宮崎理事)資料1
2020年度第3回理事会議事録案の内容を確認し、これを承認した。
2. 2021年度社員総会について(石丸理事)資料2-1, 2, 3, 4
2021年度社員総会について、開催方法・スケジュール・議題などを確認した。社員には事前に開催通知・議事・資料・出欠・委任状をメールで送付し、6月23日(水)に開票・集計・質問の取りまとめを行い、6月27日(日)13:30～14:30よりZoomによるオンライン会議にて、議決の結果報告・意見交換・賛助会員の入会金と会費についての報告などを行うこととする。
3. 2020年度事業報告について(石丸理事)資料3-1, 2
2020年度事業報告について、2020年度事業報告書(学会全体および委員会活動)を基に確認し、社員総会に諮ることとした。
4. 2020年度決算案について(石橋理事)資料4
2020年度決算について、収支計算書を基に確認した。
5. 2020年度監査について(石橋理事)
今年度の第1回理事会は例年に比べ、ひと月ほど早い開催ということもあり、会計書類の完成が、5月10日頃になるため、会計書類到着後、会計監査を行い、社員総会に諮ることとした。
6. 2021年度事業計画ならびに2022年度事業計画案について(石丸理事)資料5
2021年度事業計画書、2022年度事業計画書を基に確認し、2021年度社員総会に諮ることとした。
7. 2021年度予算案について(石橋理事)資料6
2021年度予算について、2021年度予算書を基に確認し、2021年度社員総会に諮ることとした。
8. 2021年度会員報告会について
2021年度会員報告会の開催については、学術集会がWeb開催になったことに伴い、開催時間などを調節し、執り行うこととした。
9. 入退会者申請者について(石丸理事)資料7、別紙資料
入会申請者49人、退会申請者63人(2020年度退会:62人、2021年度退会:1人)について、資料を基に確認し、これを承認した。なお、入会申請者のうち推薦人がいない者については宮崎理事長を推薦人とする旨、退会申請者のうち年会費に未納がある者は納付をもって退会を認める旨を確認した。

報告事項

1. 第 24 回学術集会について（岸理事） 当日資料

岸理事より、第 24 回学術集会の進捗について報告がなされた。第 4 回企画委員会を 2021 年 4 月 29 日を開催したこと、および各プログラム内容と座長の検討や、査読スケジュールおよび査読方法・内容を確認したこと、広報活動として、学術集会チラシ・研究力向上セミナーチラシを看護系大学、関連団体等に発送したこと、第 8 回日本 CNS 看護学会、第 63 回日本老年医学会学術集会にバナー広告を掲載したことが報告された。

2. 第 25 回学術集会について（田村理事） 資料 8

田村理事より、第 25 回学術集会の進捗について報告がなされた。開催趣旨を「地域看護が時代の要請を捉え、人々の健康と安寧に、より一層貢献するための方策を見出すことを目指す」「老人保健法施行以降の地域看護の実践を振り返り、ポストコロナ禍に向けて、看護プロフェッションが果たすべき役割機能責務を追究する」としたこと、開催地である「富山県や北陸・近県での取り組みを取り上げ発信する」こととしたことが報告された。また、学術集会チラシを作成し、富山県内の保健師に登録準備を進めてもらうことを目的と、県内に配布したことが報告された。

3. 会員数について（石丸理事） 資料 4

4 月 20 日時点での会員数は、1,412 人である旨を報告した。

4. 委員会報告について

1) 編集委員会（北山理事）

学会誌第 24 巻第 1 号が 4 月 28 日に公開となったことが報告された。前回の理事会でも議題に挙げた著者からの論文取り下げについては、編集後記ページに論文取り下げを認めた旨を掲載したことが報告された。また、前回のアンケート結果を反映し、会員に学会誌公開のお知らせを目次付きのメールマガジンにて配信した旨も併せて報告がなされた。

2) 研究活動推進委員会（大森理事） 資料 10

第 2 回研究セミナー（3 月 14～21 日：オンデマンド配信／3 月 13 日：LIVE 配信）について、申込人数が 210 名（会員 182 名、非会員 7 名、学生 21 名）であった旨を報告した。

今後も、時間や会場の制限がないことから、セミナーのオンライン化・オンデマンド配信化を継続していくこととした。また、過去に開催したセミナーのアーカイブ化を経費なども含めて検討していくこととした。

3) 広報委員会（田村理事） 資料 11

公的病院等の地域連携担当部署に対する調査・広報活動を行ったことが報告された。調査期間は 2021 年 2 月～2021 年 3 月、回答数 154 件（回収率 14.1%）であった。内容としては、公的病院等の地域連携担当部署では、「地域看護における退院調整困難な事例への調整、アプローチ、支援方法、困難事例の共有」「医療と看護の連携」などの医療連携、多職種連携に興味があることや ACP 看護倫理、看護界への AI の導入と活用、高齢化社会と地域包括ケアや入退院支援など広い視野で看護の知見を求める意見があったことや共生社会という大きな土台の上に様々な内容が集まってくる第 24 回学術集会への期待も書かれていた。また WEB 学会は参加しやすく、今後も配信することも検討して欲しいなどの意見が得られた。

4) 教育委員会（岸理事）

「日本地域看護学会が提案する地域看護学の卒業時到達目標と内容・方法」を学会 HP 上にて公開したことが報告された。また、『看護展望 5 月号（メヂカルフレンド社／月刊誌）』に、宮崎理事長が「看護基礎教育におけるこれからの地域・在宅看護論と授業づくり」について、岸理事が「看護学基礎教育で修得すべき地域看護の能力（コンピテンシー）と卒業時到達目標、および目標に到達するための教育内容と方法（2020）を読み解く」を、教育委員会委員で、原稿を執筆し、掲載されたことが報告された。

5) 国際交流推進委員会（河野理事）

第 24 巻第 1 号に英文ニュースレター No.20 を掲載されたことを報告した。

6) 表彰論文選考委員会（上野理事）

表彰論文の授賞式を第 24 回学術集会内で行うこととし、岸学術集会長と石丸総務と開催方法・時間などを調節していくが報告された。

7) 災害支援のあり方検討委員会

災害対策に関わる情報や被災地の保健師活動についての情報を収集し、それに基づいて地域看護の実践・教育・研究のあり方を考える機会を作る活動を今後も継続して行うことが報告された。

5. その他

1) 次回理事会の日程について（宮崎理事）

学術集会開催前である 2021 年 7 月末～8 月上旬に次回理事会を開催することとした。